

令和 元 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
(平成 30 年度の実績評価)

作成日 令和 1 年 6 月 28 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある快適なまちの形成	施策主管課	農林商工部 観光商工課
	施策No.	14	施策名	観光資源の保全と活用	施策主管課長名	櫻本 明正
施策関連課名						

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市民 本市への来訪者	地域資源の有効活用による経済効果
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
① 対象指標	ア 市民	人	見込み値			72,322	72,001	71,680	71,359	71,038	
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018	71,880	71,602		
	イ 観光客	千人	見込み値			844	859	875	890	905	
			実績値	813	704	685	753	692	711		
	ウ		見込み値								
			実績値								
② まちづくり指標	A 南アルプス山岳交通機関を利用した広河原への訪問者数	千人	目標値			45	47	49	51	53	
			実績値	41	30	41	39	38	34		
	B インターネットによる市観光情報の閲覧回数	回	目標値			840	855	870	885	900	
			実績値	822	1,247	1,806	2,170	2,459	3,025		
	C 楡形山周辺施設等利用者数	人	目標値			25,000	25,250	25,500	25,750	26,000	
			実績値	24,590	21,539	22,430	23,386	10,225	19,847		
	D 農業体験実習館(樹園)宿泊客数	人	目標値			1,880	1,910	1,940	1,970	2,000	
			実績値	1,836	1,279	2,029	2,584	2,956	2,392		
	E		目標値								
			実績値								
まちづくり指標設定の考え方		<p>A: 山岳観光の振興対策の効果を示す。 【南アルプス山岳交通適正化協議会から報告された利用者数÷2 [延べ人数(往復)を想定し2で除した人数を設定]</p> <p>B: 観光に関する情報の充実度を示す。 【南アルプス市観光協会において発信したインターネット情報(観光協会facebook)の閲覧回数】</p> <p>C: 市内の自然資源を活用したエコツーリズムの推進を示す。 【楡形山県民の森関係施設(森林科学館・ウッドビレッジ伊奈ヶ湖・グリーンロッジ・レストハウス伊奈ヶ湖)及びトレッキングコースを利用した観光客数】</p> <p>D: 市内の自然資源を活用したグリーンツーリズムの推進を示す。 【農業体験実習館「樹園」の年間宿泊客数】</p>									
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)		<p>A: H21からH25年(H23は通行止め期間があったため除外)の対前年度比の平均的な増加率7%を見込み目標設定 B: 中部横断自動車道の開通及び観光拠点施設整備等の観光振興などにより、5年間で約80回(約10%)の増を見込み設定 C: 観光情報の積極的PR及び資源を活用したイベント等エコツーリズムの充実により、5年間で約5%(約1,400人)増を見込み目標設定 D: グリーンツーリズム関連事業の充実により、5年間で約9%(約170人)増を見込み目標設定</p>									

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
関連事業本数	46	49	42	40	39	37	36	
関連事業予算額(単位:千円)	193,758	349,443	278,716	183,816	484,057	503,865	382,879	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	5,596	1,800	0	0
	県支出金	3,528	24,585	20,492	14,392	0	47	0
	地方債	0	122,600	26,500	0	293,600	328,100	152,300
	その他	29,181	28,004	19,083	24,732	27,703	24,504	31,727
	一般財源	161,049	174,254	212,641	139,096	160,954	151,214	198,852

4 評価結果(施策の有効性評価)

① 目標達成度評価(目標値と実績値との比較)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	※左記の理由 指標A:高山への山岳観光・・・実績値は、台風の影響により休日の登山客数が減少してしまった。指標B:ホームページやフェイスブックの活用によりタイムリーな情報発信を心掛けた結果増加傾向である。指標C:低山への観光・・・台風の影響により休日の観光客数が減少したことにより目標値を下回った。指標D:平地でのグリーンツーリズム・・・指定管理者の営業努力により目標値を上回った。
② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	※左記の理由 指標A:高山への山岳観光・・・天候の影響はあるものの堅調に推移している。 指標B:SNS利用者の増加に伴い、フェイスブックの閲覧が増加している。 指標C:低山への観光・・・目標値は下回ったものの伊奈ヶ湖周辺施設のリニューアルオープンの効果により現れ明るい兆しがある。 指標D:平地でのグリーンツーリズム・・・前年は下回ったものの堅調に推移している。
③ 他自治体との成果実績値の比較	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	※左記の理由 山岳観光については、富士山、八ヶ岳などと比較した場合、登山の難易度やアクセスの容易さが異なるため比較が難しいが、南アルプス山域は登山者に根強い人気があり、他の山域の状況に左右されることはあまりない。

5 まとめ(課題の抽出と解決の方向性)

施策の課題 (現状の問題点)	課題解決の方向性
観光客の滞在時間が短く、観光による地域消費額が少ない。滞在型及び体験型観光の受け皿が少ない。また、冬の観光メニューが少なく通年型観光が確立できていない。	伊奈ヶ湖周辺施設(エコパ伊奈ヶ湖)を滞在型及び体験型観光の拠点とすべく、森林を活用したアスレチック施設等の整備を進め楽しみのエリアを創出する。また、通年型果樹観光を確立すべく、いちご狩り農園の誘致、新規創業を進める。
多様化する観光ニーズに対し、行政主導での取り組みはマンパワー面や財政面に限界がある。	民間事業者や地域住民による主体性を持った地域振興を目的とした観光プログラムの企画・運営を促進するため、補助事業等による支援を行う。 行政の役割として各公設の山小屋や温泉施設について、計画的な改修によりリニューアルを進め、利用者の利便性向上に努める。
外国人観光客誘客のための情報発信、インフラ整備等の受け皿の整備が遅れている。	SNSにより情報発信の強化及びフリーWi-Fiネットワーク環境の整備、案内看板等の多言語化を進める。 また、観光の拠点として整備する予定のエコパ伊奈ヶ湖について、外国人観光客の興味をひくアクティビティーの整備を行う。